

自動撮影カメラ調査の実施概要

(1) 目的

イノシシの生息状況を把握する際に、痕跡調査では実施した時期の情報しか得られなかったり、調査日の天候や実施する調査員により発見率に偏りが生じたりすることがある。また、群れ構成を把握することも難しい。

イノシシの分布拡大の抑制や密度の低減を目的とした場合、密度分布やその季節変化、群れ構成を把握し、捕獲計画の立案、効率的な捕獲の実施、さらに捕獲の効果検証と次期計画への反映が重要となる。

そこで、指定管理鳥獣捕獲等事業の実施区域において生息密度分布や群れ構成を把握し、捕獲計画の立案および捕獲の効果検証を行うために、継続的に設置可能であり、群れ構成を把握することができる自動撮影カメラを用いて、イノシシの生息状況のモニタリングを実施する。

(2) 方法

1) 設置機器

自動撮影カメラは、ハイクカム SP108-J (株式会社ハイク製) を用い、以下の設定とした。

インターバル	動画	静止画	感知レベル
なし	5 秒 (画質 : WVGA)	1 ショット (8M)	中

2) 設置地点・期間

長生地域は、ある程度密度が高いことから、事業実施地域全域の密度分布を把握するため、実施地域全域にまんべんなく設置することとし、1km×1km を 1 メッシュとし、4 メッシュに 2 台を設置することを基本として選定を行った。成田地域は密度が低いため、目撃情報や捕獲情報の補完を目的として設置地点を検討した。地点を選定する際には、目撃情報や捕獲情報、生息状況調査の結果、今年度に捕獲の実施を検討している地域、下見調査をした際の現場の状況 (痕跡の有無等) を参考にした。

設置候補地点は、成田地域に 7 地点 (図 1)、長生地域に 45 地点 (図 2) とし、この中から 45 地点程度に設置する。

平成 28 年 8 月から順次設置を進めており、年に数回のデータ回収を行い、長期的なモニタリングを実施する。

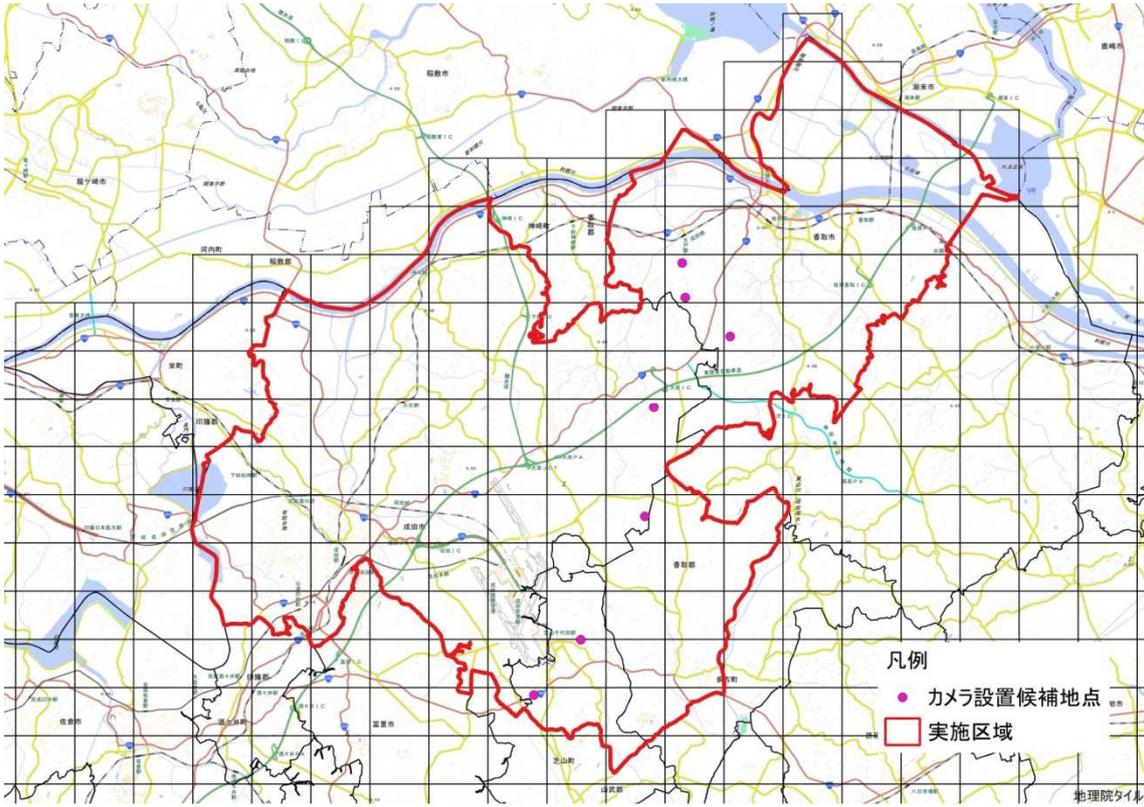


図1 成田地域におけるカメラ設置候補地点

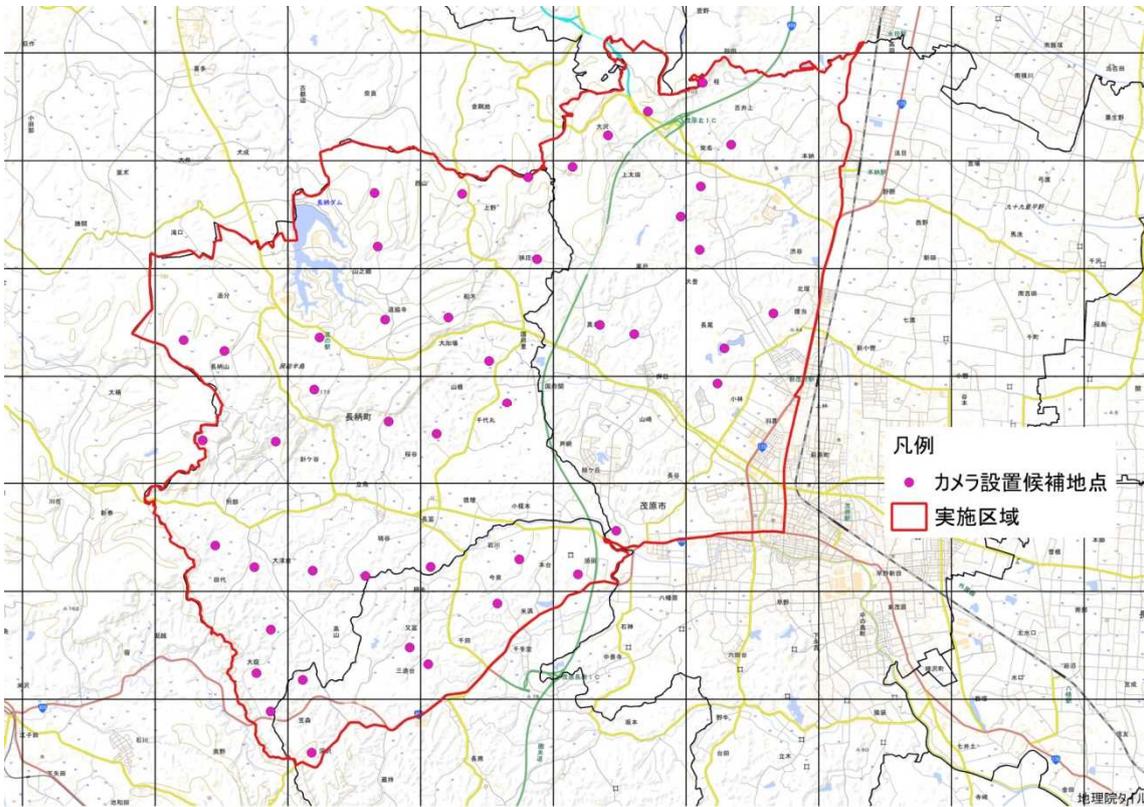


図2 長生地域におけるカメラ設置候補地点

3) 設置環境

設置する環境は、現地の下見調査からイノシシによる利用が想定される、獣道沿いとし、可能な限り糞や食痕等の痕跡が発見された場所とした。



写真 カメラ設置候補地点（長生地域）

4) 解析方法

得られた撮影データは、地点別・月別にイノシシ及びその他の野生動物の撮影枚数を集計する。また、イノシシについては、子連れの成獣の撮影枚数も集計する。